

今年も10月16日(日)にリバーサイドカーニバル2016が開催されます。木曾川とみなと公園の自然があふれる会場で、ステージイベントや催し広場、ちびっこコーナーなど、盛りだくさんの事業が計画されています。

「道徳のまち笠松」推進会議のメンバーも、皆さんに楽しんでもらうため、ふれあいコーナーに出店します。

主な活動は、好きな絵柄を使ったオリジナルの缶バッチ作りです。

昨年は、缶バッチをひとつ作った子が、「もうひとつ作ってもいいですか?お姉さんにあげたいから。」「お友達の分も作ってもいいですか?」などと思いやりの心で質問する子が何人もいて嬉しくなりました。

さらに、帰り際に親子でお礼の挨拶をする姿に温かい気持ちになりました。

また、保護者の方にはアンケートにご協力いた

だいています。このアンケートで、「道徳のまち笠松」としての意識の変化をうかがい知ることができ、年々町民の皆さんに「道徳のまち笠松」が浸透していくのを感じます。

ぜひブースに遊びに来て道徳のまちを感じてください。お待ちしております。



缶バッチを作る子どもたち

かきまつの民話「昔むかし」

うどんの日 ③

夕食のときも、むしろをかぶった身体と、二本の足が忘れられなかった。どこで聞いてきたのか、父も今日の出来ごとを知っていた。おどおどしている弥一を横目で見ていた。

「木曾川にはな、ドヂ(スツボン)が住んどるんや。六月十六日(今の七月十六日)前に川へはいると、ドヂがノコ(肛門)をひっぱって底へひいてってしまうぞ。ドヂはなあ、子どものノコが大好きや。それもな、うどんを食べる日までのノコが一番好きや。いつあがる土左衛門もたいていは子どもじゃ。うどんを食べる日までは川へ行ってはあかんぞ。」

そこで父は、弥一の顔をききと見つめた。  
「去年もそうだったが、毎年今ごろ土左衛門があがるなあ人のいうことをきかんでや。」  
母はたまつてうなずいていた。

弥一も頭をさげて聞いていた。その夜、弥一はなかなか寝つかれなかった。うすぎみわりの深い淵での今日の出来ごとが、何度も頭の中を走りすぎていった。

木曾川の流れは大水によってよく変わった。このころ、米野の下あたりに、かなり深い淵が出来ていた。青黒い水が渦をまいているところもあった。雨の日や曇った日などは、引きずりこまれそうな気味のわるさであった。

木曾川には、腰までぐらいの浅瀬もあり、真夏になると、ここの子どもは、一日中魚とりや水遊びですごすのだが、あぶないところもいっぱいあった。

川遊びの楽しい思い出と、昼間みた死体のことが弥一の頭の中をいききしていた。  
(つづく)